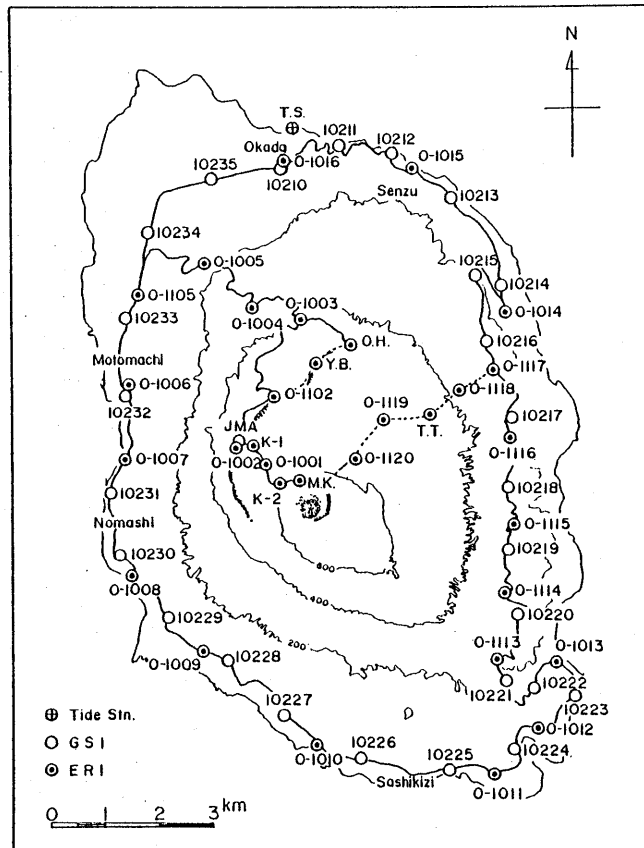


# 伊豆大島三原山の上下変動\*

## (1982年8月~1985年6月)

東京大学地震研究所

東京大学地震研究所では、1954年以来、伊豆大島において水準測量路線を設け、測量を実施してきた。このうち1954年~1974年の期間は、主として大島西側山体における路線で4回の測量を実施した。1982年には大島の東側周回道路より三原山火口縁に至る路線（水準点は1979年設置）の測量を行い、翌1983年には西側周回道路より火口縁に至る測量を実施し、山体横断の測量を完成させた。水準測量路線を第1図に示す。これらの結果については既に本会報<sup>1), 2)</sup>に報告しており、BMO-1006（元町）を不動とすると、1974年~1983年の期間、僅かに山体が沈降する傾向が見られた。

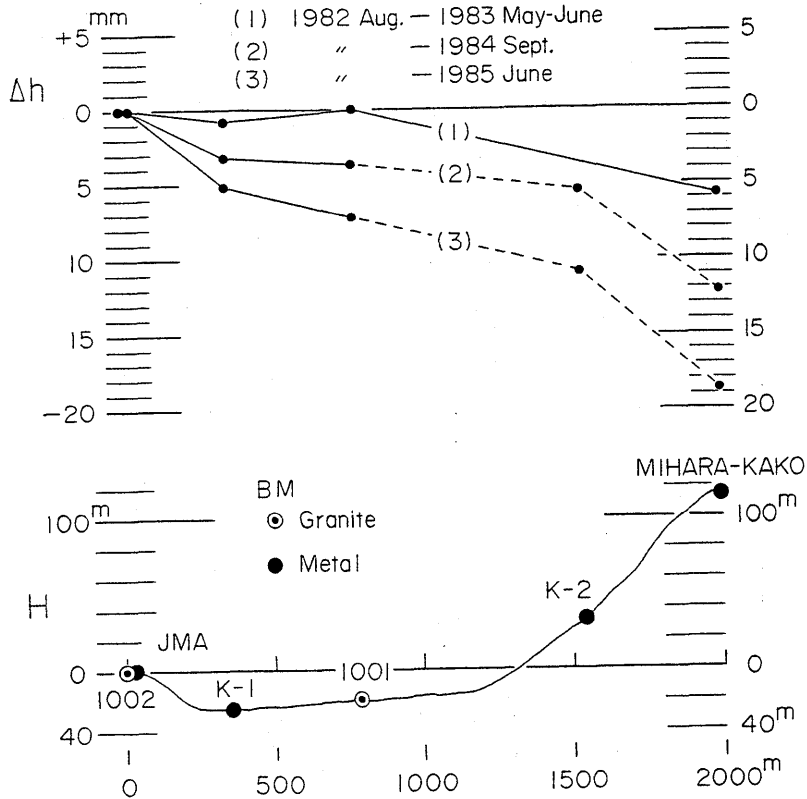


第1図 伊豆大島における水準測量路線。

Fig.1 Location of the bench marks for precise levels on and around Izu-Oshima volcano.

\* Received Dec. 2, 1985.

1982年以降は、毎年、三原山北西外輪山鏡端(O-1002)と三原山火口縁(MK)との間の測量を実施している。1982年8月～1985年6月の期間における結果を第2図に示す。外輪山に対して内輪山が系統的に沈降しているのが分る。これは、1974年～1983年の期間の長期変動と同傾向で、山体が沈降していることを示す。三原山は1974年2月～3月に小噴火し6月下旬まで活動を続けたが、7月以降は現在に至るまで表面活動は平穏である。上下変動測量結果よりみる限り、1985年6月現在、三原山直下浅部の圧力が増加している兆候は認められない。



第2図 1982年以來の、三原山北西外輪山鏡端(O-1002)と内輪山火口縁(MK)との間の比高變動図(水準点O-1002を不動とする)。但し水準点K-2については、1983年以來の變動量を示してある。下段は測量ルートに沿った地形断面図。

Fig.2 Height changes of the bench marks along the route from the northwestern rim (O-1002) to the top of the central cone (MK) of Mt. Mihara since 1982 (BM O-1002 fixed). As for BM K-2, however, the height changes since 1983 are indicated. The lower part of the figure shows the topographical profile along the route.

## 参 考 文 献

- 1) 東京大学地震研究所(1974):伊豆大島における地殻変動測定, 噴火予知連会報, **1**, 21-26。
- 2) 東京大学地震研究所(1985):伊豆大島における水準測量, 噴火予知連会報, **33**, 27-29。